

東京農業大学稲花小学校

学校だより【6月21日】第12号



稲花タイム【田んぼでの体験学習】

6月13日(木)、1年生は、横浜市青葉区田奈の田んぼへ。5月23日以来、2回目の訪問です。今回は、東京農業大学農芸化学科の横田健治教授には稲の分げつについて、加藤拓准教授には田んぼの土の構造について教えていただきました。難しいかな?と思うようなことでも、先生や大学生・大学院生の説明に熱心に聞き入っています。ペットボトルを使って土の層をきれいに取り出す様子は、子どもたちには手品のように見えたかもしれません。校長は生きもの担当。中でも、ホウネンエビとカエルには人気が集中していました。「ホウネンエビって食べられるかな?」これは校長に課せられた宿題となりました。

初めてのもの、知らないことでも、まずは「見てみる」、「触ってみる」、「わからない」ことは「質問してみる」という姿勢が育ってきているのを感じた一日でした。日々の授業でも、子どもたちの「なぜ?」「どうして?」を大切にしていきます。

保護者会【夏季行事の説明と学校医講話】

6月19日(水)には、夏期行事の説明と学校医の講話を行う保護者会が行われました。7月には伊豆での宿泊学習が行われます。1年生は、日々の授業や稲花タイムで、事前学習を重ねています。「体験を重視する学び」を大切にする、本校ならではの行事です。

参加する保護者(希望者のみ)には、ご自分のお子さまの様子を客観的に見てその成長を知る機会として、また、子どもたちとともに学習する機会としていただくようお願いしています。思わず声をかけたり、手伝ったりしたくなるかもしれませんが、ここはぐっと我慢していただくことになっています。本校の教育の理念は、「冒険心の育成」です。子どもたちの「冒険心」の芽を、大きく育てたいものです。

続いての講話では、本校の学校医から健康診断の目的や、その結果をどのように理解したらよいかを丁寧にお話しいただきました。

様々な体験を通して学ぶ本校ではとくに、心とからだの健康を保つことが大切です。宿泊学習に向けて、保護者の方々の心配にも寄り添ったお話をさせていただきました。

本校では、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、そしてスクールカウンセラーが、子どもたちの成長を見守っています。

楽しい給食！

工夫された給食も子どもたちの楽しみの一つです。6月20日(木)の給食は「深川めし」, 「じゅんさいのすまし汁」, 「豆腐のまさご揚げ」, 「ピリカウきゅうり」, 「さくらんぼ(佐藤錦)」, 「牛乳」…と盛りだくさんです。

「豆腐のまさご揚げ」を最初は警戒？していた子どもには、まず箸で半分にしてみることをすすめると、その白さや柔らかさに安心したのでしょうか。完食でした！また、「じゅんさい」が池に生えている植物であることを伝えると、早速「えーっ、汚い」「なめくじみたい」の声も出ます。でも、誰かがつるりと食べると、さっきの一言はどこへやら、おいしく頂いているようです。「じゅんさい」を給食で味わう小学生は、日本中を探しても、そうはいないのではないのでしょうか。明日の給食が楽しみになったひと時でした。

校長 夏秋 啓子